

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

先週は、5、6年生のテストのために、校長先生のお話はありませんでした。何人かのお友だちから、まるちゃんどうなの？などのお話しの続きを気にする声を聞きました。みなさんが、校長先生のお話をよく聞いていて、とてもいいなあ、そしてお話しの続きを気にするのは、とても素敵だなあと思いました。

校長先生の家の子猫たち、4匹まとめてニャンダースと言っているのですが、この子たちは産まれて2ヶ月ぐらいはお母さん猫のニャンマルのおっぱいを飲み、すくすく大きくなっていきました。そしてだんだんとキャットフードも食べたのですが、それぐらいからお母さんのニャンマルが家の外で遊ぶことが多くなってきました。

赤ちゃんがお腹にいる時や、おっぱいをあげている時は、ほとんど家にいたんですが、ニャンダースを産んでから2ヶ月ぐらいすると、やたらお外で散歩するようになったのです。そのあと1年ぐらいは、家で赤ちゃんのお世話なんかもしてたりしたんですが、とうとうあるときからあまり家に帰ってこなくなったのです。

それまでは、外で遊んでいても、ごはんのときに「ニャンマルー」と呼ぶと、すぐに帰ってきてたのですがどんだけ呼んでも全然帰ってこなくなったのです。ある時チェリーのお散歩をしている時に、外でニャンマルを見かけたので、つかまえて抱っこして無理矢理家まで連れてきたんですが、地面に置いたとたんビューッと走ってどこかに行ってしまうしました。そのあとは、見かけてももうつかまえることすらできなくて、家に戻すことをあきらめました。

さて、家に残されたニャンダースたちは、そのときおっぱいこそ飲んでいなかったのですが、いろいろ困ったことがおこりました。

人間もそうですが、赤ちゃんというのはなかなか一人で寝ることができません。みなさんも、お家の人がだっこしたりしながら寝かしつけて、寝たのですよ。ニャンダースの場合は、ニャンマル母さんがペロペロ全身をなめてあげることで、だんだんと眠りに入っていました。

また、猫はお風呂に入りませんから、なめて自分の体をきれいにするしかないのですが、赤ちゃんは当然できません。ご飯を食べたあとなどは、ニャンマルが子猫の口のまわりなどをきれいになめてあげていました。

でも、お母さんネコのニャンマルがいなくなったので、ニャンダースたちは大変困りました。毎日夜も眠りにくく、落ち着かなくなりました。このままほっておいたら、ご飯も十分に食べられなくて死んでしまうかもしれません。

でも、安心してください。4匹のニャンダースは、立派に大人に育ちました。それは、ある子が一生懸命お世話をしたからなんです。さて、一体誰がこのニャンダースたちのお世話をしたのでしょうか。

少し周りの人と聞き合ってみてください。

なんと、犬のチェリーがニャンダースのお世話をしてあげたのです。ニャンマルがいなくなってからは、いっしょに遊んであげたり、体を舐めてあげたり、それはそれはとてもかいがいしく子猫たちのお世話をしていました。おかげでニャンダースは立派な大人猫に成長したのです。ニャンマル母さんの代わりに犬のチェリーが子猫4匹を立派に育てあげたのです。

あれ、動物にくわしい人はもう気づいたと思うのですが、犬と猫ってそんなに仲がよかったのでしょうか？いいえ、むしろ犬と猫は、全く仲が良くない動物です。いまでもチェリーは散歩の途中に、

他の猫を見ますと「ウーッ！」と言ってものすごく怒ります。

しかし、一緒に暮らしているニャンダースたちには怒るどころか、とてもやさしくお世話をし続けました。おかげで、子猫たちはすくすく育ち、立派な大人のネコになりました。

こうやってみますと、仲良く過ごすというのは、小さな命を救うということにもなると言うことです。皆さんはどうでしょうか。仲良くないお友達とどのように接していますか。ときには、喧嘩をしたり、怒ったり泣いたりはすると思うのですが、その後は、そのお友達と仲良くできていますでしょうか？

すぐには仲良くなれないかもしれませんが、チェリーがニャンダースを育てたことを思い出して、少しずつでもいいので、仲良くできるようにがんばってください。

そして、なんと昨年、新メンバーがこのニャンダースに加わったのです！いったい誰が入ったのでしょうか？

今日の話はここまでです。最後まで先生の話静静地に聞いてくれて本当にありがとうございます。またよかったら、今日のお話の感想を校長室前のボードにつぶやいてみてください。

これで校長先生の話が終わります。

